

第6学年体育科「みんなで跳び越えろ、過去の自分 ～走り高跳び～」

学習指導者 山口 誉之

最初に走り高跳びの記録を測定した子供たちは、昨年度全員の記録の合計が隣のクラスに負けてしまったことを思い出し、「今年こそは全員の記録の合計で隣のクラスに勝とう」という目標を設定しました。目標達成のためには、一人一人が1cmでも記録を伸ばしていくことが大切であることを共通理解し、個人の目標も設定しました。

記録を伸ばすために、ポイントを意識して練習しよう

空中で足と腕をしっかり上げられるようになろう

リズムよく助走できるようになろう

【見通し】

「隣のクラスに勝つ」という単元の目標を確認した後、本時の課題を設定しました。その後、前時の振り返りで見付けた自分の動きの問題点から個人課題を見いだしました。課題解決中に困ったら、補助黒板にあるみんなで蓄積した動きのこつを見たり、友達と動きの確認をしたりしながら、理想の動きと比べるとよいことと、自信をもてたタイミングで試しのジャンプに挑戦するとよいことを確認し、課題解決の見通しを立てました。



【行動】

課題に合った場を選びながら練習したり、友達に動きを撮影してもらい、理想の動きに近づくためにすべきことを助言してもらったりしながら取り組んでいきました。練習中、課題解決につながった子供の取り組み方を知ったことで、今自分が選んでいる場や練習が正しいのかを確認することができていました。行動場面の最後には、「まとめジャンプ」を行いました。記録の伸びや動きの上達を捉えていきました。



【振り返り・見通し】

「まとめジャンプ」で撮影した動画を見ながら、友達と振り返りを行いました。自分の動きを手本の動画や理想のイメージと比べながら、「自分の成長」と「新たな問題点」を発見していきました。その後、一人一人の伸びで目標の達成に近づいていることを喜ぶとともに、友達からの助言のおかげで伸びたという発言を聞いて、他者と関わることのよさを感じていました。



成果と課題

○課題ごとに場を分けたり、順番の待ち時間の使い方を共通理解したりしたことで、友達と関わりながら学びを進める姿が多く見られた。そのおかげで、教師が、困っている子供に関わる時間を多く確保することができた。

▲解決場面で選んだ練習の場が妥当かどうかを判断できるように、認定していた「アドバイザー」を活用したり、ループリックを設定したりすることで、子供たちの課題に対する「わかった」「できた」がさらに増えたのではないかな。